

和光市協働事業実績報告書【平成27年度実施事業】

事業名	一市民スポーツを目指して～和光市運動場有効利用計画～
日 時	平成28年5月17日（火）10:00～11:30
場 所	和光市役所6階市民交流スペース
出席者	事業実施団体：和光市体育協会 村山・白田 担当課：スポーツ青少年課 山口 市民活動推進課 中川・新坂

1. 事業概要

事業名	一市民スポーツを目指して～和光市運動場有効利用計画～
-----	----------------------------

事業主体	事業実施団体	行政（担当課）
	和光市体育協会	スポーツ青少年課

事業費	予算額	決算額
	1,769,000 円	1,645,440 円

事業内容 （実績）	(1). かけっこ教室を開催する (2). ソフトテニス教室を開催する。 (3). レクリエーション教室を開催する。 (4). 普通救命講習及び防災訓練を実施する。 (5). グラウンドゴルフ教室及び大会を開催する。 (6). キャッチボール教室を開催する。 (7). サッカーフィジカル教室を開催する。 (8). 健康体操教室を開催する。
--------------	---

2. 事業結果

	当初	実績
事業 スケジュール	(1). かけっこ教室 7～8月 (2). ソフトテニス教室 7～9月 (3). レクリエーション教室 8月 (4). 普通救命講習及び防災訓練 9月 (5). グラウンドゴルフ教室及び大会 10～11月 (6). キャッチボール教室 12～1月 (7). サッカーフィジカル教室 12～1月 (8). 健康体操教室 1～2月	(1). かけっこ教室 8～9月 (2). ソフトテニス教室 5～7月 (3). レクリエーション教室 11月 (4). 普通救命講習及び防災訓練 10月 (5). グラウンドゴルフ教室及び大会 10月 (6). キャッチボール教室 7月 (7). サッカーフィジカル教室 8月 (8). 健康体操教室 1～2月
事業変更理由 *事業内容の変更や計画どおりに進められなかった理由をご記入ください。	(1). かけっこ教室 各小学校等の運動会直前まで講習をするために9月にかけて企画しなおした。 (2). キャッチボール教室およびサッカーフィジカル教室 夏休み中の昼間に行うことにより、学期中の夕方では習い事などがあって野球やサッカーから縁遠い子も参加しやすいようにした。また、平日昼間の稼働率向上を目指した。 (3). ソフトテニス教室 かけっこ、キャッチボール、サッカーの3教室が8月にかかるため、運営都合上早期に開始した。 (4). レクリエーション教室 同様に8月に実施する教室が増えたため、運営都合上、時期を変更した。 (5). 普通救命講習 市による防災行事との関連で、日程を変更した。	

	当初	実績
事業 成果 指標	各教室参加者数 教室参加者アンケートによる満足度調査 参加者及び既存利用者へのアンケート、ヒヤリングによる課題抽出、分析及び改善提案	● 実施8教室合計199名(集客達成率53～167%) ● 実施8教室平均満足度89.6%(82～96%) ● 参加者アンケート実施 ● 参加者ヒヤリング

コ メ ン ト	団 体	早期に始めたソフトテニスでも「暑くて大変だった」という回答が多く見られた。丁寧な指導に満足している参加者も暑さについては別のものである。参加者から提案のあった「屋根、ミスト噴霧」などの暑さ対策には多くの予算を必要とするため、「時期をずらしてほしい」という意見を勘案すべきだと考える。 また、アンケート結果を見ると、ソフトテニスやグラウンドゴルフでは満足度が低い参加者の改善要望点が「もっと回数を多く」「人数が多い」と、より丁寧な指導、継続的な指導を望んでいることを表している。キャッチボール、サッカー、かけっこの各教室についても、「夏休みのコースだとよい」「2回目の企画をしてほしい」「回数を増やしてほしい」「毎週あると有難い」と継続企画の希望があり、市民の向上心が読み取れる。 なお、各種教室を通じて運動場の利用方法を紹介した。
	担 当 課	ソフトテニス教室をきっかけに家族で庭球場の団体登録を行い、新たな利用団体として活動を行ってもらうことも出来た。また、会議室を利用した教室では、会議室でも運動が可能であることを示すことが出来、参加者が活動している団体の新たな活動箇所として利用してもらうことが出来た。 また、ソフトテニスやキャッチボール、サッカー、かけっこ教室といった若年層を対象とした教室では回数を多く開催してもらいたかったといった声や継続して年間を通して行ってもらいたいといった要望を会場で直接受けることが多かった。また、グラウンドゴルフでは次回開催を期待される声も多く受け1市民1スポーツを進める上では大いに寄与してもらえたと考えている。しかしながら、団体登録を行い継続利用をしてもらう点では数回の教室等で動いてもらうには、テニスのように2名から登録出来る物と比べ10名以上の登録要件を科しているグラウンドの利用にはハードルが高いと感じた。

	団体	担当課
想定以上の事業成果があったか	はい	はい

「はい」と回答した場合、どのような事業成果があったかをご記入ください。

団 体	後述のように、市内の事業者と良好な関係ができた。グラウンドゴルフでは今回の教室が市内のグラウンドゴルフの団体が横のつながりを作るきっかけとなった。また、協働事業であるため、和光市と体育協会役員がそろって広報に努めたため、市内の幼稚園が運動場で行事を行うことに発展している。
担 当 課	市内の事業者や活動団体と良好な関係を構築する事が出来た。また、体育協会内の競技以外の資格の有資格者を講師として召集したりと協働事業を行うことによって、体育協会とより良好な関係が再構築できた。

その他の意見等

- 【団 体】教室に参加した幼稚園児の保護者が運動場という施設があること、使用できることを幼稚園のスタッフに伝えたところ、運動場で幼稚園のマラソン大会を実施することとなった。教室を実施したことが、運動場の稼働率アップにつながった。また、グランドゴルフ教室では、教室終了時に賞状をもらった高齢者が大変喜んでいるのが印象的だった。「生きがいだ」と話す参加者もいた。
- 【担当課】体育協会に所属するある連盟の関係者に、テーピング講座の講師をしてもらった。今回、先方から講師ができる旨の話をいただき実現した。今までは、連盟の関係者として一面的に接していたが、今回のように多面的な関係が築けたのは、この事業があったからこそである。

3. 協働の結果

(1) プロセスの積み重ね

	団体	担当課
①事業進捗状況の報告を行っていましたか。	はい	はい
②問題が生じたときに、すぐに話し合えましたか。	はい	はい

上の①～②までの項目で、「いいえ」と回答したものがあつた場合、どのようなことでできなかったか、どうあれば良かったかをご記入ください。

(2) 事業の広がり

協働事業の実施により、新しいつながりや連携が構築された場合、その内容を具体的に記入し、このつながりや連携を今後の協働事業の展開にどのように活かそうと考えているかをご記入ください。

(新しいつながりや連携の構築がなかった場合、この欄への記入は不要です。)

団 体	【具体的内容】 かけっこ教室の講師を和光市内スポーツ教室運営のミウラスポーツに依頼。教室開始以前から打ち合わせを重ね、意思の疎通とともに、スポーツを通じた地域貢献の在り方について意見を交換した。また、教室を通じて、低年齢層への指導においても教示を受けた。
	【つながりや連携の活用】 —

担 当 課	【具体的内容】 板橋でマラソン大会を取り仕切っているミウラススポーツクラブにかけっこ教室の講師依頼を行ったことにより和光のロードレースに助言をもらう事も出来た。また、スポーツ少年団の指導者からは、低年齢層への指導においても教示を受けた。
	【つながりや連携の活用】 ロードレース等を発展的に開催していく上で、有識者として意見を伺い、改良していきたい。

その他の意見等

【団 体】今年度もミウラススポーツクラブに講師を依頼しようと考えている。また、野球連盟から、講師を依頼したいとの相談を受けた。

(3) 市民満足度の向上

	団体	担当課
事業の受益者の満足を得ることができましたか。	はい	はい

「はい」と答えた方は、受益者の満足度を調べるためにどのようなことをしたかを、「いいえ」と答えた方は、その理由を下欄にご記入ください。

団 体	各教室の各回に当協会役員が赴き、参加者にヒヤリングをした。ソフトテニスにおいては最終回に、以後の事業は最終回の前の回にアンケート用紙を配り、最終日に回収したことで、参加者の満足度、評価する点、評価できない点と改善希望、各種要望を調査した。回収率が低く見えるのは、兄弟姉妹が参加した家庭については、保護者 1 人のみが回答したためである（回収率 30～90%）
担 当 課	各教室に職員も会場で運営補助を行うことで、直接参加者の意見を受け、場合によっては講師としても参加し、参加者の反応を直に感じ、満足度を測ることが出来た。

(4) 協働基本原則

「和光市協働指針」では、市民と市が協働を円滑に進めていくための以下の6つの基本原則を定め、これをお互いが理解し、常に協働基本原則に則って取り組んでいくこととしています。これらに則って事業に取り組めましたか。

	団体	担当課
①「相互理解の原則」	はい	はい
②「目的・評価共有の原則」	はい	はい
③「自立の原則」	はい	はい
④「対等の原則」	はい	はい
⑤「役割分担明確化の原則」	はい	はい
⑥「情報公開の原則」	はい	はい

■⑤役割分担について

団 体	企画、広報（案）作成、講師との調整、関係団体との調整、市内および近隣の幼稚園・小学校への案内、当日立ち合い、アンケート（案）作成、アンケート集計、集金、支払、修了証発行、記録証発行、決算書作成
担 当 課	企画、市報や市の掲示板、市の公共施設における広報、市内および近隣の幼稚園・小学校への案内、申込受付、実施要領の発送、当日立ち合い、

役割分担でよかった点や改善点をご記入ください。

団 体	紙媒体による広報だけでなく、近隣の幼稚園に両者そろって出向き説明したことで、和光市と和光市体育協会の協働事業のあり方を実感していただけたのがよかった。信頼していただけたため、積極的な参加をいただいた。その結果、その幼稚園が行事で運動場をつかうことに発展し、当初の目的である稼働率向上に貢献できた。
担 当 課	参加申込時の問い合わせに対応するため講師との調整にも加わったところ、教室の充実のみでなく、今後のつながりもより深く構築する事が出来た。 紙媒体による広報だけでなく、近隣の幼稚園に両者そろって出向き説明したことで、和光市と和光市体育協会の協働事業のあり方を実感していただけたのがよかった。また、幼稚園が行事で運動場を使うことに発展し、当初の目的である稼働率向上に貢献できた。

■⑥情報公開について

団 体	【PR事例】 広報わこう、和光市ホームページ、和光市掲示板、公共施設におけるチラシ配布 【社会的認知度の向上】 広報わこうには、大きく取り上げていただいたこともあり、「いろいろな教室をやっているのだな」と印象付けられたようだ。
--------	---

担当課	教室は紙媒体として広報、チラシと共に市ホームページを使用し広く情報発信を行った。また、天気により、当日開催の判断が難しい場合にもホームページ等で周知でき、参加者への混乱を最小限に抑えることが出来た。
-----	---

その他の意見等

【団体】全体的に、もっと効果的なPR方法があったかもしれないと考えている。また、グランドゴルフ教室は、会場へのアクセスが不便で参加したくてもできない、という話も聞いた。

⇒【市民活動推進課】PR方法だが、過去の事例では高齢者は自治会内の回覧、若者はFacebookでの周知が効果的だった。参考にして欲しい。

(5) 協働の成果

協働することで、団体、市、市民それぞれにどのようなメリットがありましたか。

団体	【団体のメリット】 協働することで、今まで直接アプローチすることがなかった低年齢層の保護者に体育協会を紹介できた。高齢者スポーツを考察する機会も得られ、スポーツを通じて地域貢献している事業者や他の団体とも交流できたので、今後の一市民スポーツの実現に向けての活動の糧となった。
	【市のメリット】 参加者に運動場が良いグラウンドであることを実感していただけた。参加者には教室の継続希望を持つ方も多く、今後の企画の参考になった。前述のように市内幼稚園に運動場を利用していただくきっかけとなった。また、一市民スポーツのきっかけになれるものであった。
	【市民のメリット】 アンケートには、運動場に初めて入ってよかった。(種目を)はじめてやって楽しかった。もっと続けたい。和光市に(高齢者が)元気をもらえる所があるなんて幸せだ、などの回答があった。この反響に代表されるように、一市民スポーツのきっかけとしていただけた。
担当課	【市のメリット】 初めての競技に触れてもらう機会を提供でき、一市民スポーツに貢献することが出来た。また、参加者である市民に運動場が良いグラウンドであることを実感していただけた。 通常業務ではなかなか触れ合うことの出来ない市民や有資格者、講師とつながりを持つことが出来、業務の幅を広げることが出来た。

その他の意見等

【担当課】 アンケートに「夏季のミストシャワーの設置」を希望する記載があった。このように担当課が改善を検討できる意見を聞いたのは貴重だった。

事業を実施したことで、改善が必要だと思われること、思ったとおりできたことは何ですか。

団体	今回8教室も行うので、一つは障がい児にも参加していただこうとレクリエーション教室は障がい児を念頭に企画した。打合せをし、この機会を有効利用していただけるよう対象年齢をあげた。一般公募ができず残念だったが、打合せや実際の教室を通じて交流機会がもててよかった。一方で広報の難しさを実感した。
担当課	教室の周知方法について改めて難しいと感じた。広報やホームページ等の既存ツールだけではなく、どのような周知を行うのが、対象者に伝わるのか検討を重ねてゆきたい。また、幅広い世代を同時に受け入れる教室等の立案の難しさを感じた。しかしながら、対象者を想定して教室の立案や広告を行ったことにより、ニーズにあった教室を開催することが出来た。

(6) その他

上記以外で、協働事業の成果として特にアピールしたいものがあれば、ご記入ください。また、それが今後の協働事業の発展にどのように貢献すると考えているかをご記入ください。

(特にアピールしたいものがなければ、この欄への記入は不要です。)

団体	【成果のアピール】 今回の事業で、多くの市民がスポーツに触れる機会を作ったということが大きな成果だと考える。例えば、かけっこ教室では小さな子どもたちが講師たちに自分から進んで心からの挨拶をしていた。「きちっと教える」ということに触れたので、自然と自分から挨拶をしたくなったものと思われる。本物に触れる機会を提供できことを実感した。 【事業の発展への貢献】 —
----	---

協働事業を実施した率直なご感想をご記入ください（良かった点、苦労した点、印象に残っていること、事務量の変化・協働に対する意識の変化等があったか等）。

担当課	業務量が増えて事務的にはつらい部分もあったが、それ以上に参加者と直接触れ合える機会を得られ、生の意見を受け取ることが出来た。
-----	--

その他の意見等

- 【団 体】子どもの参加者には、「あいさつをすることの大切さ」を教えることができた。
- 【担当課】「和光市に運動場があることを知らなかったが、今回の講座により知った。」という意見が聞かれた。今後の稼働率の向上に繋がると思われる。
- 【市民活動推進課】平成 28 年度も事業を継続する予定か。
- ⇒【担当課】委託する方向で進めている。